

FUKUI DAIZU 情報



ようやく秋らしくなってきました。今年の夏は猛暑・少雨となり、大豆栽培にも厳しい年となりました。大豆栽培もいよいよ終盤です。今後は生育状況と天候を確認し、収穫時期を見極め刈取作業の準備を始めましょう。また、収穫は事故のないよう無理のない計画を立てましょう。

1. 適期刈取の徹底(高品質大豆の仕上げ作業)

① 収穫前に雑草・青立ち株の除去

□ 大型化した雑草や青立ち株は、汚損粒の原因となるので、収穫作業前に抜き取って圃場外に持ち出す。

② 大豆の適期刈り取り

高品質大豆の集荷と円滑な乾燥調製作業を行うため、子実水分(22%以下)の厳守をお願いします。子実に爪痕が5mm程度付く硬さが目安。

□ 早刈りは → 損傷粒(つぶれ粒)

□ 刈り遅れは → 裂傷粒・割れ粒・しわ粒・裂莢による落粒

刈取判断は、水分測定をしてから。適期収穫で収量・品質アップ!

刈り取りの目安

落葉期 : 葉や葉柄が黄変して落ちる。また、手で触ると簡単に落葉する。

葉

莢成熟期 : 莢は褐色で、茎を揺さぶるとカラカラと音ができる。

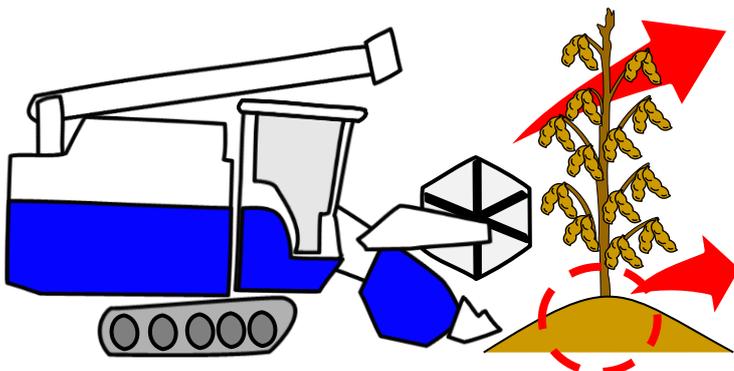
莢

茎水分60%以下 : 茎は黒味を帯び、手でポキッと折れる。

茎

ポキッ!

2. 大豆刈取のポイント



■ 収穫時間 午前10時～午後4時まで。

■ リールの調整

刈取時の大豆を刈刃で切断するとき、運転席から見て大豆の姿勢が直立か、わずかに運転席側に倒れた状態になるようにリールを合わせる。

■ 刈り高さの調整

土をすくい上げると汚損粒が発生します。着莢位置を確認しながら、できる限り高刈りに調整する。

■ 汚損粒を防ぐ

土をすくい込んだ場合は、すぐに機械を止め、プラットフォーム上の土を取り除いて清掃する。

3. 大豆の施設対応について

JAの各センターでは、大豆の荷受け準備を進めています。大豆の刈取については、今後の天気により刈取適期が前後します。大豆の荷受けについて、大豆刈取前に各センターへお問い合わせ下さい。また、大豆施設搬入時に生産工程管理日誌を提出下さい。

